

平成26年度事業報告書

1. 事業計画

利用者の人権を尊重し、利用者中心の質の高いサービスの提供に努めるとともに、地域福祉サービスの拡充を図る。障害者総合支援法に基づき、新たな福祉サービスの創造と地域社会における共生の実現に向けた取り組みを積極的に行う。組織運営においては、職員個々の能力開発や専門性の向上を図るため、研修等を通じて計画的に人材を育成し、職員一人ひとりに高い倫理観と規範意識の保持を促し、信頼感を高める。

2. 事業内容

市から委託を受けた平和塔公園の清掃を1年間に渡り、利用者、職員で全36回実施できた。夏場の清掃は、蚊に刺されながらたいへんであったが、近所の住民から高い評価を得た。回収した枯葉等は新たに導入した軽トラックで定期的に秋水園に持ち込んで処分した。近隣地域のアルミ缶・ダンボールの回収は前年度から継続して行った。回収、選別、洗浄などの作業は利用者に定着し、スムーズに作業ができるようになった。通常テラスで行っているアルミ缶の洗浄作業は、寒い時期には、テラスから室内に作業場所を切り替えるなど、利用者の作業環境の整備に注意をはらった。メール便配達は7月から念願だった近隣の配達地域の拡大が実現し、配達冊数が大きく伸びた。メール便配達作業をする利用者による特別報告会(第二回)がヤマト福祉財団協賛のもとで行われ、配達作業をしている4名の利用者が各自の経験談や期待することなどを報告した。在籍の利用者、他作業所の利用者、一般市民、市議会議員、就労支援室職員など約50名の出席を得て、メール便配達作業を広く知ってもらう良い機会になった。10月には行政の資源回収が「戸別回収方式」に変更となり、利用者の作業負荷の増加を危惧したが、利用者と職員のミーティングやオリエンテーションを重ねることにより、大きな問題もなく、新しい戸別回収作業への切り替えができた。また、軽トラックを導入したことにより、独自の古紙回収も機動力を増し、回収量の増加につながった。国立精神・神経医療研究センター病院デイケア祭、日比谷公園バザーや恒例になっている東村山市の産業まつりなど、バザーに利用者とともに参加し、手芸品やリサイクル品の販売を行った。リクレーションは昨年に続き、市バスを借りて宿泊研修(箱根)を実施し、その他に花見、家族会、クリスマス会、ボーリング大会などを行い、利用者の社会性や協調性の向上に務めた。

3. 第三者評価

新体制となってから、初めてとなる第三者評価は NPO 福祉経営ネットワークに委託して実施した。H26 年 10 月 10 日から利用者の聞き取り調査を開始した。当日出席の 16 名を対象に実施された。当日、欠席者 8 名は質問シートに記入し、郵送する方法をとった。職員の自己評価は 10 月 24 日までに行われ、11 月 7 日に集計結果が送付されてきた。本年、1 月 13 日に経営福祉ネットワークから最終報告が職員になされた。「理念・告知」「情報誌発行」「苦情窓口の掲示・周知」「中長期計画」「個人情報保護規定」「利用者契約書の文言など」についての指摘事項が多少あった。1 月 16 日に福祉経営ネットワークが都へ報告し、ホームページで評価結果が閲覧可能となった。

4. 元理事長不正経理支払

平成 29 年 12 月を最終の支払として、現在進めている。対象者は 80 名、支払額は約 800 万円である。半数の行方がわからず、支払いができない状況にある。行方不明者については、近郊の市町村の生活福祉課の協力を得ながら進めているが、入院中や、連絡が取れない利用者は依然多い。約 15 名の支払いが完了している。

5. 資金計画

飛白会からの借入金 638 万円は 11 月に完済できた。しかし、元理事長不正経理に係る支払が H26 年 10 月から始まり、H29 年 12 月まで支払が継続する。この先、数年は資金計画にゆとりが出る状況とはならない。

6. その他

中・長期計画で策定した新規事業の立ち上げを速やかに行い、作業を拡大するとともに、工賃向上を目標とした運営を目指していく。